

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈中・28〉	いわき市立	湯本第二	中学校
＜実施日＞	平成28年7月1日(金)			
＜実践教科等＞	※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。 1 理科 ② 学級活動 3 総合的な学習の時間 4 その他()			
＜実践内容＞	『放射線と健康』 ＜ねらい＞ 放射線と健康の関係を知り、身を守ろうとする意欲を持たせる。 福島県立医科大学・放射線医学県民健康管理センター職員の方を講師に迎え、放射線についての科学的な理解を深め、放射線に関する基礎知識や放射線からの具体的な身の守り方等を身につけ、今後の日常生活に役立てる、放射線の健康への影響について考え、二学期に実施する甲状腺検査の目的や重要性について考えさせることを目的に講演会を実施した。 講演会の内容以下の通り ○甲状腺が体のどこにあって、どんな働きをしているのか。 ○放射性ヨウ素とヨウ素について。 ○甲状腺検査の手順と使用する機器について、実際の超音波器具を使ってどのように見えるのか実験。 ○検査の結果の見方 ○のう胞と結節の違い			
＜成果＞	すでに検査を経験している生徒がほとんどであるが、あらためて甲状腺検査を受ける目的と意味を理解することができた。また、現段階では原発事故と甲状腺がんとの関わりが極めて薄いこと、発症したとしても命に関わるということがほとんどないということが確認できた。			
＜課題＞	原発事故から5年経過し、少しずつ放射物質への意識が薄くなっている点も感じられる。甲状腺検査は長期にわたって検査を受けることが大切であることを継続して説明していく必要がある。			
資料作成担当者職(教諭)	氏名(伊藤 みな)	学校電話番号	(42-2376)	

【資料作成上の注意】

1. 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
2. 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。
(送信先: kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp)